

2017年4月23日(日)

説教:「福音を恥としない」

聖書:ローマの信徒への手紙1:8~17

ドイツの神学者ボンヘッファーは言う。「安全の道を通って平和に至る道は存在しない。何故なら、平和は敢えて、なされねばならないことであり、一つの偉大な冒険であるからだ。それは決して安全保障の道ではない。平和は安全保障の反対である。安全を求めるということは、相手に対する不信感を抱いているということだ。」今まさにトランプ政権の米国は、「安全」という名のもとに戦争を始めている。シリアを空爆し、アフガニスタンも空爆した。さらに米国の安全のため、日本の安全のためにと北朝鮮を今にも攻撃するかのように威嚇する。

今、その情勢の中で教会は何をしているのか？ いつの時代も教会は神から問われている。教会には、神の平和が語られている。教会は平和を語らなければならないし、戦争を止めなければならない。教会は託されている。キリストの到来によって与えられた「地には平和」という戒めを、無条件にひたすら服従の行為をもって歩んでいく必要を、教会は託されている。蛇のように「神は本当にそう言われたのか？」と疑問を投げかける教会になりさがってはいけない。

パウロは「福音を恥としない」という。それはどういうことか？ ≪わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。≫とあり、福音は神の力そのものであるという。私たちクリスチャンは、福音を神の力だと信じて、その通りに歩めているか？ 教会はどうか「福音を恥としない」歩みが出来ているか。神の御言葉を、神の戒めとして無条件にひたすら服従の行為をもって歩んでいるか。

もし、歩んでいけているのなら、この世に戦争は起きないはずだ。私たちはどこかで、蛇のように「神は本当にそう言われたのか？」と疑問を投げかけてはいないか。神の力である福音に向き合うことを大事にしていきたい。

たとえば…イザヤ書2章4節には、≪主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない≫と歴史の教訓から聖書は教えている。人の命を奪う武器を造るのではなく、人を育む命を生かす農機具を作って、畑を耕し、作物を収穫して、食べ物を分かち合って、互いに生きることを神は私たちに教えている。

神の言葉、神の力である福音を、私たちが恥としないキリスト者の歩みをして行きたい。
緊迫した社会情勢を覚えながら。(神谷)